

平田 晃久（平成 6）

京大建築 100 周年関連イベントとして開催された、100 周年記念コンペティションの授賞式が、100 周年記念行事のプログラムとして執り行われました。

コンペティションのテーマは、「これからの街の遺伝子」とし、100 年後の街に引き継がれていくような考え方を持った建築案を募集しました。以下にテーマ文を引用します。

「これからの街の遺伝子」

人々が息づく街は、長い時間をかけて形成される、時間の産物です。個々の建築は、それぞれがつくられた時代を反映しながら、街という大きな織物を形成します。しかし建築は、単に街の要素だけでない役割も果たします。ある建築が、単体にとどまらない、新しい遺伝子のようなものを持っていれば、それはその後に別の建築へと引き継がれ、拡がり、長い時間をかけて街そのもののありようを変えていくでしょう。100 年後の街の姿を正確に予測することはできませんが、100 年後の街を豊かにするような、遺伝子を残していくことは可能です。

新しい遺伝子は、これまでその街をつくってきた遺伝子が、ほんの少し変わっただけのものかもしれませんし、これまで全くなかった根本的に新しいものかもしれません。それはまた、特定の街のありようを豊かにする遺伝子かもしれませんし、どの街にも普遍的に拡がっていきえるような遺伝子かもしれません。このコンペでは、アイデア部門と実作部門の二つの部門において、そのような、これからの街をつくる元になる考え方を含んだ建築案を募ります。敷地や規模、機能は問いません。あなたの設計した建築が、どのような側面において、これからの街にポジティブに引き継がれる特性を持っているのか、プレゼンテーションしてください。京大建築 100 周年を彩る、自由な提案を期待しています。

共通のテーマのもと、アイデア部門と実作部門の二部門を設け、京大建築会の学生会員を含

む様々な世代の会員に幅広いアプローチで参加していただけるようにしました。それぞれの部門ごとに金賞（賞金 25 万円）、銀賞（賞金 12 万円）、銅賞（賞金 8 万円）、佳作（賞金 2 万円、5 作品）の賞を設け、授賞式当日には、各受賞者がそれぞれプレゼンテーションを行い、各界で活躍する京大建築会の方々に自らの仕事をアピールできる機会を設けることとしました。

審査は京大建築会会員である以下のメンバーで取り組みました。建築デザインのみならず、環境や構造の分野で活躍する多彩な審査員が多角的な視点で応募案を批評することを意図しました。

◇審査員

平田晃久 京都大学教授（審査委員長）
青井哲人 明治大学教授（平成 4）
大岡龍三 東京大学生産技術研究所教授（平成元）
勝矢武之 日建設計ダイレクター（平成 10）
満田衛資 京都工芸繊維大学教授（平成 9）

コンペに関しては京大建築会ウェブサイト上にコンペウェブサイト（京大建築 100 周年記念コンペ - <http://100th-compe.archi.kyoto-u.ac.jp/>）の情報を掲載した上、会員にメールリストで連絡を行いました。作品は 2021 年 7 月 19-26 日を応募受付期間として募集し、アイデア部門 16 作品、実作部門 17 作品のご応募をいただきました。

コンペの審査は、2021 年 7 月 29 日に行い、審査の様子はウェブサイト上にリアルタイムで公表しました。公開された動画の通り、他分野の審査員による多角的かつ厳正な審査を行った結果、受賞作が以下のように決定されました。

◇受賞作品

アイデア部門

金賞

039 豊永嵩晴 記憶の現像術

銀賞

006 羽村祐毅・羽村弘・萬田隆 伽藍の胸襟

を開き、いま地域の変化に寄り添う
銅賞

010 陸 嶺 Seaweed Forest

佳作

015 尾崎聡一郎 Runway-scape 一放射光研究
所・病院施設群―

019 山井駿 STORY-ET CHAYAMACHI

033 大森正夫 嵯峨八景図屏風

034 布江田望月 Second TREE Tactics―第2
の街路樹政策―

038 田村太久人・齊藤風結・加藤安珠 空隙
を泳ぐ 一元橋百貨店改修計画―

実作部門

金賞

013 藤田慶・川上聡・植森貞友 蔵の家―京
都祇園の酒蔵・土蔵の改修―

銀賞

035 畑友洋 甲陽園の家

銅賞

012 水谷俊博・水谷玲子 まちへ広がる美術
館―アーツ前橋―

佳作

002 白川直行 A Little House

005 中西ひろむ COCONO アートプレイス

025 森田昌宏・足立裕己・安東陽子・田村利
夫 黄檗山萬福寺第二文華殿

028 塚田豊男・隈研吾・坂本英史・小松啓
一・辻泰一・池崎正浩・小田衛・花房広哉・
坂本健・山野上和志・山田稔明 ホテルロイ
ヤルクラシック大阪

042 岩瀬諒子 堤防のリノベーション「トコ
トコダンダン」

授賞式では、上記の受賞作品と受賞者名が発
表されました。各受賞者はオンラインで参加し、
自身の作品画像などを使いながらプレゼンテー
ションを行いました。時間の関係で、金、銀、
銅賞の受賞者は3分、佳作受賞者は1分という
短い発表時間でしたが、どの受賞者も時間を大
きく上回ることなく、興味深いプレゼンテーシ
ョンを行っておられたのが印象的でした。

最後に各審査員の先生方から全体に関するご
講評を頂きました。青井先生からは、個人やコ
ミュニティーのタイムスパンをこえて続く、遺

伝子をそなえる系をどうとらえるか、という問
題意識の重要性が指摘されました。また審査に
関する反省点として、まだ見ぬ新しい価値を生
み出すような、見る側がざこちなさを感じるく
らいの案が金銀銅賞にはなかった点があげられ
ました。大岡先生は、ご自身の審査基準として
交差（異なる価値の邂逅）、変異（新たな視点
の創出）、選択（適応して普及展開）というキ
ーワードを挙げられました。いずれも遺伝子と
いうテーマをかみ砕いたものですが、これらに
加えて「こういう未来であってほしい」と感じ
るものを選んだとも述べられました。勝矢先生
は、創造的なアイデアを問うとともに、参加者
が街と建築と人の豊かさをどう見ているかとい
う、街への「視点」を問いたい、と述べられま
した。満田先生は遺伝子＝部分を継承しながら
漸次変化するもの、と解説され、評価基準とし
て、チャレンジの有無（交叉・変異）、技術選
択の正しさ（適応／淘汰）、総合力＋物語の美
しさ（評価関数）の三点を挙げられました。筆
者（平田）からは、応募案のクオリティは全体的
に高く、京大建築会のレベルの高さを感じた
一方で、「遺伝子」というテーマに対する回答
を直接的に記述した案が意外に少なく、もう少
し明示的に語ることが重要ではないかとの指摘
がなされました。

以下は、各部門の金、銀、銅賞に関するコメ
ントのまとめです。

アイデア部門

金賞 記憶の現像術



写真というものがある光の状態を定着し現像
するように、ある場所に対する記憶を、建築的
オブジェクトとして敷地の上に「現像」するよ

うに降り立たせる提案です。「写真による記憶のとどめ方を設計に応用する新しい考え方」（大岡先生）、「観察者の視点に立ち、見る人によって違う認識が記憶の中に重なり合って生まれる街を描き出した」（勝矢先生）など、ユニークな建築に対するアプローチが高く評価されました。

銀賞 伽藍の胸襟を開き、いま地域の変化に寄り添う



伽藍という伝統的な存在が、破風というエレメントを変化させただけで、現代的な場所に変化する提案です。「建築的エレメントの扱いによって継承と転換が巧みにつくり出されている」（青井先生）、「伽藍が従来の意味から変化しており、過去の遺物ではなく現実として転用するという考え方に共感」（勝矢先生）、「破風を交叉のように部分的に入れ替えるという遺伝的操作」（満田先生）などのコメントがありました。

銅賞 Seaweed Forest



海の中の海藻の森のように、密度を低くした立体的な都市とそこに配された植物のありよう

を美しく表現した提案です。海のようにでもあり森のようにもある美しい色に着彩されたドローイングは、非現実的なようでありながら、未来の都市を構想する基盤となる新しい美学を感じさせるものでした。

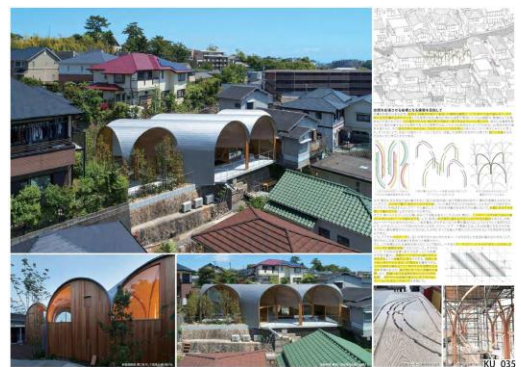
実作部門

金賞 蔵の家—京都祇園の酒蔵・土蔵の改修



リノベーションの案件ながら、新しい金物の採用によって既存構造体から桁材を取り除き、そこから光を取り入れてまったく異なる空間に変容させる提案です。「桁を外すことで町家の空間を豊かにしている」（大岡先生）、「酒蔵内部に新しい構造をオーバーレイしたブリコラージュのような豊かな空間」（勝矢先生）など、多くのポジティブなコメントが寄せられました。シンプルでささやかながら、大胆な変容をもたらす遺伝子を感じさせました。

銀賞 甲陽園の家



LVL を NC マシンでカットして、まるで模型をつくるかのように精緻なボルトの反復をつくり出した作品です。45 度傾けられたグリッドは、多方向を向く周辺の街並みに呼応しており、

「街とつながることと幾何学的純粋さが共存している」（勝矢先生）、「構法上の工夫によって遺伝的変異をつくり出している」（満田先生）など高い評価を得、最後まで金賞を争いましたが惜しくも銀賞となりました。

銅賞 まちへ広がる美術館ーアーツ前橋ー



地方都市に建つかつてデパートだった建物を現代美術館に変容させた建築です。既存の空間が潜在的に持っていた可能性を、それぞれの部分で巧みに発見し、美術館の空間として多彩なスケール感とプロポーションを持った場に変容させつつ、街に対しても柔らかい現れを持つものに变化させた手法が高く評価されました。

以上の報告に加え、最後になりましたが、快く審査員を引き受けてくださった審査員の先生方、コンベ事務局の運営などご協力いただいた関東支部（東京一八会）のみなさまをはじめご協力いただいた全ての方々、応募いただいた全ての参加者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。